

平成28年度三機関連携マレーシア教育拠点職員研修(SD)参加報告

第一技術班 茂木 貴之

1. 目的

国立大学改革強化推進事業「三機関が連携・協働した教育改革」の一環として、大学及び高等専門学校を巡るグローバル化の進展に適切に対応するため、平成26年度より事務職員を対象とした海外研修の取り組みを開始しました。

マレーシア教育拠点設置先であるペナンにて、英語を駆使した国際実務等の経験を積むことなどにより、グローバル化組織改革の担い手となる将来のリーダーとしての資質を高め、自発的な能力開発を促すことを目的としています。

2. 研修対象者

豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構各高専所属の事務系職員
(今年度は、年度末年齢が50歳未満で、原則5年以上の勤務経験)

3. 研修内容

I. 国際儀礼、国際会議運営、英文契約書、英文書簡・英会話に関する派遣前研修

II. 現地高等教育機関における実践英会話研修

III. 国際会議運営実務、マレーシア教育拠点業務支援(グローバルFDフォローアップ等)による現地訓練

IV. 現地関係者(マレーシア科学大学等)との意見交換

○日本の大学とのマネジメントの違いなどの調査テーマを各自設定し、マレーシア科学大学(USM)他、現地関係者へのヒアリング及び意見交換を行う。

V. 報告会実施。次期研修者への研修内容の引き継ぎ。

○研修終了後、報告会を実施するとともに、現地研修内容及び現地機関との協議・調査内容を各所属機関にフィードバックを行い、機関全体の活性化に繋げる。

4. 研修期間(平成28年度初級クラス)

・事前研修:平成28年7月27日～29日 ・現地研修:平成28年8月17日～26日

5. 参加に関する動機について

佐世保高専電気電子工学科では平成19年度より毎年海外工場見学旅行を行っている。技術職員においても引率補助の業務がこれまでに数回行われた。本年度も秋期に引率補助の予定(実施済み)があり、単なる語学研修にとどまらない本研修を受けることで、より柔軟な対応ができることを期待した。また、本校における留学生に対する実験指導補助や近隣米軍基地内スクールへの出前実験対応など、実施対応はもちろんのこと、事務手続き等においても昨年度本研修を受講した事務職員と連携して円滑な業務の遂行が可能となることが予想された。

国際交流に関する業務が増える中、一部の(特定の)教職員のみ対応していたが、本研修を受講することにより昨年度受講した職員と連携して学内研修会等を開催し、他の教職員に対して知識を広め、業務の効率化につなげることを期待した。

6. この研修で得られたこと

事前研修で3日間、現地 college において約3日間、英語研修を受けることが出来た。また、国際会議運営のお手伝いもでき、たくさんの英語に接する機会があった。この研修期間だけで英語力が向上するということはないが、様々な場面でのキーワードを知ることができ、今後自分自身が行っていく英語力向上の指針になると思われる。国際儀礼に関しても、このようなキーワードに触れる機会が無かったので今後は意識して知識や情報の蒐集ができるようになると思われる。

7. 今後の課題・目標及び業務への反映等について

I. 英語力の向上

- ・まずは、英語力を上げないことには業務への反映には至らない

対策としてまずは、九州沖縄地区高専向けのオンライン英会話講座への参加。

- ・次のステップ

オンライン英会話講座の継続や、市内近郊での英会話教室への参加を考える。

II. 国際交流関連業務への積極的な参加

一般的な英会話だけではなく、業務に活かせる英語の習得を目指す。実際に業務への参加を積極的に行い、自身に不足していることを確認する。

8. 本研修における率直な感想(堅苦しい言葉は抜きにして)

- ・関係者との出会い

SD 研修参加者やそれをサポートしていただいた豊橋技術科学大学国際課スタッフの方々に大変お世話になった。皆さんのおかげで楽しく研修に参加することができた。

- ・ペナンでの思い出

私自身楽しい思い出ばかりで、機会があればまたペナンを訪れたい！という強い思いがそうさせたのか、この研修参加をきっかけに次年度工場見学旅行の候補地に…1月に担当教員との現地視察を終え、9月には学生引率補助業務が発生しそうである。

